

P32c

## WFGS2による大規模 T タウリ型星探査 - Cep OB3 領域 -

仲野誠 (大分大学)、杉谷光司 (名古屋市立大学)、福田尚也 (岡山理科大学)、渡辺誠 (国立天文台)、石原大助 (名古屋大学)

我々はハワイ大学 2.2m 望遠鏡に搭載されたグリズム分光器 WFGS2 を用いて大規模な T タウリ型星探査を実施している。今回は IC1396 (Nakano et al. 2011, submitted to AJ) に引き続いて Cep OB3 領域全面にわたる深い分光サーベイを実施した結果を報告する。現在までに CepOB3a,b のかなりの部分を覆う 2 平方度、79 視野のスリットレス分光および  $i'$  バンドでの測光観測を完了した。それを元に  $H\alpha$  輝線星 (T タウリ型星候補) の探査を行い、総計 762 個を検出した。そのほとんど (96%) は 2MASS 点源カタログにある天体と同定できた。

T タウリ型星候補は主に以下の領域にクラスタリングしていることが確認された。(1) 最も早期の星 HD217086 (O7 型) もしくはそれを励起星とする HII 領域 S155 によってブライトリムを形成する分子雲コア CepB 隣接領域。この領域は最も多くの候補星 (全体の約 30%) を含んでいるが、CepB の前面には少ない。(2) 分子雲コア CepF の北側隣接領域 (CepB よりも約 20' 西)。数としては (1) の領域より少ない (約 15%) が、より集中度が高い。(3) Herbig Be 星を中心とした反射星雲 vdB155/GN22.51.2 周辺、および分子雲コア CepA 領域 (合わせて 6%)。

それ以外にも  $A_V$  の小さな ( $A_V < 3.0$  等) 領域に広がって分布する候補星があるが、その数 (約 350 個) は推測される前景の dMe 星の数 (120 個程度) を上回り、分子雲中で形成された 1 Myr 程度の T タウリ型星を 100 個以上含んでいると考えても矛盾しない。ポスターでは測光結果や赤外線天文衛星あかりとの比較、および CepOB3 メンバー星との比較等も紹介する。